

2020(令和 2)年度 事業計画書

—みなとみらいキャンパスの竣工と中期計画の推進—

	ページ
I. はじめに	1
II. 重点事業の概要	1
1. 大学	2
2. 附属学校	4
3. 基盤整備	6

I. はじめに

2020 年度は、みなとみらいキャンパスが竣工し、グローバル系学部が集結することから、新たに教育研究・社会連携の拠点が增えることとなり、いわば「第二の開学」としてスタートを切ることとなります。また、国際日本学部の開設、本学の施設整備の全体計画となるキャンパス新総合計画グランドデザインの策定、建築学部（設置構想中）の 2022 年 4 月開設をはじめとする教育組織の新機軸の検討等、新たに策定した 2020 年度から 5 ヶ年の中期計画の下、大きく進展する年となります。

重点事業であるみなとみらいキャンパス計画を中心としたキャンパス新総合計画グランドデザインの策定、教育組織の新機軸の検討等の各計画を推進するとともに、学長のリーダーシップの下、「時代を切り拓く力」を持った YOKOHAMA の総合大学として、世界を引き付け、未来社会を先導するために、創立 100 周年、そしてその先を見据え、競争力を強化し、魅力ある学園づくりを進めます。

II. 重点事業の概要

2020 年度は、将来構想の推進を中心に、次の 5 点を重点項目とし、その実現に向けた諸施策を実施します。

○ 将来構想実行計画(中期計画)の推進

将来構想実行計画（2018-2028）の下、大学、附属学校、基盤整備における中期計画（2020-2024）の推進、新教育組織の構築と推進、みなとみらいキャンパス開設準備とキャンパス新総合計画の推進、財政基盤の強化、SDGs の推進を重点施策とし、将来構想の実現に向け推進します。

○ 新教育組織の構築と推進

2020 年度開設の国際日本学部につき、建築学部（設置構想中）の開設や人間科学部の改組、Society5.0 等に対応した理工系の改革等、魅力と実力を兼ね備えた教育組織の新機軸の検討に取り組みます。また、「海とみなと」を新ブランドとする世界水準の教育研究を全学的に展開するとともに、本学のこうした取り組みを広く世界に発信するため、トップマネジメントによる広報を強化します。

○ みなとみらいキャンパス開設準備とキャンパス新総合計画の推進

みなとみらいキャンパスは 2021 年 4 月の開設に向け、キャンパスコンセプトである「国際・日本」が融合した未来「創造・交流」キャンパスを実現し、世界標準の人材を育成するため、教育・研究環境やソーシャルコモンズ等の充実、新キャンパスに対応した組織体制の構築等を推進します。

2020 年度に今後の将来計画を加味したキャンパス新総合計画グランドデザインを策定し、体育・スポーツ施設は教育組織の新機軸の検討状況や課外活動の強化を踏まえ、中山キャンパス及びその周辺での整備を進めます。また、中山キャンパス 50m プールの屋内化・温水化、理学部移転に向けた施設改修、横浜キャンパス図書館改修等を進めます。

○ 将来構想を推進するための財政基盤の強化

将来構想実行計画（2018-2028）で掲げた諸施策を実現するため、2018 年度に策定した中長期財政計画（2018-2028）に基づき財政基盤の強化を目指します。みなとみらいキャンパス計画を含め、キャンパス新総合計画、教育組織の新機軸の検討等の施設整備計画をキャンパス新総合計画グランドデザインにまとめ、中長期財政計画を具体化、精緻化し、将来にわたり安定的な法人運営を推進します。

○ SDGs の推進

神奈川大学ダイバーシティ宣言の下、2019 年度に策定した「SDGs への神奈川大学のコミットメント」を実現するため、持続可能なグローバル目標である SDGs の達成に向けた研究・教育を推進するとともに、横浜市や神奈川県等との包括連携協定に基づき、地域社会の課題を解決する取り組みや自治体や企業の SDGs 活動の拠点としての役割も視野に入れ、SDGs への取り組みを強化します。

1. 大 学

2020 年度の最重点事業を以下の 2 点とし、「知の拠点」にふさわしい教育組織や教育研究環境の構築を推進します。そのために、教学ガバナンスを強化し、国際化とダイバーシティの推進、SDGs への取り組みの強化を基軸に据え、(1)から(3)に掲げる教育研究体制の整備を進めます。

◎ 新教育組織の構築と推進



創立 100 周年とその後の永続的な発展を見据え、更なる教育組織の新機軸の検討を推進します。

2020 年 4 月の国際日本学部開設に続き、みなとみらいキャンパスへの 3 学部移転と横浜キャンパスへの理学部移転を契機として、教育組織の新機軸の検討のための委員会を発足させ、課題ごとにワーキンググループを設置して、諸課題の検討を早急に進め、建築学部（設置構想中）開設をはじめとする魅力的な新学部の設立、新しい学位プログラム設置等を視野に入れた教育組織の新機軸の検討に取り組みます。さらに、社会的要請に応える大学院改革を推進します。

◎ みなとみらいキャンパス開設準備と教育研究環境の向上



みなとみらいキャンパスの開設に向けた準備を進めるとともに、教育組織の移転・集約や体育・スポーツ施設の整備を進め、教育研究環境の向上を目指してキャンパス整備計画を推進します。とくに、教育と研究の交流を促し社会に開かれた知的空間としての図書館の機能強化を図り、「知の拠点」にふさわしい大学づくりを進めます。また、地域社会との協力・連携体制を構築し、研究成果及び知的財産を社会に還元します。そのために、地域・社会との連携の拠点となる社会連携センターを設置し、横浜市や神奈川県、神奈川県中小企業家同友会等との包括協定締結に続き、自治体や企業団体等との協定締結をさらに促進します。

(1) 教育の質の向上と多様な教育の展開

〔予算: 6,144 万円〕



高大接続の要となる初年次導入教育に力を入れ、教養教育と専門教育との有機的連携に基づく、柔軟で魅力的な教育課程の改革に取り組みます。共通教養教育センターを中心に教養教育への全学的な取り組みを強化するとともに、教育の質の維持・向上を図ります。なお、2015 年度に受審した第 2 期認証評価において公益財団法人大学基準協会より示された努力課題については、教育課程の改編に合わせて再検討し、改善を図ります。

学生が自ら主体的・能動的に考え課題に取り組む学際的・国際的なプログラムを拡充し、国内外の学生交換留学をはじめ、ゼミナールや演習、体験型学習等を組み合わせて主体的・対話的で深い学びを促進します。また、学生の課内・課外活動を支援し、良識ある市民の育成と社会性の涵養に力を入れ、多様な人々が交流し人間的な成長を促しあう大学コミュニティの醸成に努めます。その実現のために、ダイバーシティ推進委員会を設置し、啓発活動と情報発信に取り組みます。

さらに、IR による教育情報等を活用し、学修成果の可視化に向けた取り組みを進めます。

(2) 特色ある研究と教育の推進

〔予算:2 億 2,222 万円〕



SDGs を実現する教育研究に取り組み、世界水準の高等教育機関にふさわしい教育研究環境の整備を進めるとともに、それらの実現に必要な事業に従事する教育職員や事務職員の配置をはじめ、学長のリーダーシップの下に積極的な教学政策を展開します。

「海とみなと」の地理的・歴史的条件を共有する国内外の大学間ネットワークの構築へ向け、神戸学院大学に続き、長崎等みなとを持つ地域にある国内外の大学と協定を締結し、それぞれの大学の個性と多様性を活かした文理融合型の特色ある研究・教育プログラムの開発や単位互換等の多彩な交流を進めます。また、こうした取り組みを大学のブランディングに活かす「海とみなと研究所」の設立準備を進めるとともに、上海交流センターに続く海外活動拠点の設置を検討します。

国内外の学生たちが共同生活と教育プログラムを通じて国際感覚を育む新しいタイプの国際学生寮「神奈川大学栗田谷アカデメイア」の本格オープンを受け、さらに整備を進めます。また、日本語・日本文化プログラムのほか、外国語による授業科目の拡充や国内外で国際性を身に付ける多様な教育プログラムの開発、留学生の日本語教育の強化等に取り組み、学生の意欲や能力を高める教育を進めます。さらに、国内外の学生が共に主体的・能動的に取り組み、多様で多彩な文化に触れられる「インターナショナルウィーク」を引き続き開催します。

若手研究者を育成し女性研究者を支援する制度と体制を確立し、国際的な活躍を応援します。また、英語版広報誌「PROUD BLUE」を活用する等、本学の世界水準の学術研究を広く世界に発信するとともに、大学院生や学生の教育研究支援を目的とする海外の優れた研究者の招へい制度を活用して、さらに学術研究交流を推進します。

(3) キャリア形成と学生支援の強化

〔予算:7 億 4,492 万円〕



学生の成長を支援する体制を一層強化し、就職支援の強化とキャリア教育の改革を進めます。また、宮陵会をはじめとする卒業生との連携を強化し、U・I ターンをはじめ、学生一人ひとりの資質や能力、希望に応じた就職支援等に取り組みます。さらに、地域社会と連携したキャリア教育やインターンシップ等の実施に取り組みます。

給費生制度や予約型奨学金制度のほか、各種奨学金等の充実に向けた検討を継続的に進めます。また、障がい等を理由とする差別や不利益が生まれないように教育環境を整備し、様々な配慮を求める学生の要望に的確に対応するサポート体制を確立して多様な学生を支援するよう努めます。

さらに、学生の課外活動の支援を一層強化します。特に、重点強化部の活動については広報活動を強化し、「TEAM JINDAI」をスローガンに学生の愛校心と一体感を醸成します。

2. 附属学校

近年、附属学校を取り巻く環境は、入口においては、私立学校に加え、公立の中高一貫校等、他校との競争の激化、出口においては、私立大学の入学定員管理の厳格化の影響等により、更なる本学の独自性が求められています。こうした中、新学習指導要領、高大接続改革、グローバル教育、ICT教育の進展、教育環境の整備等への取り組みは重要な要素となっています。このようなことから、2020年度は、(1)から(3)に掲げる教育内容の充実に取り組みます。

◎ 常に学び続け、社会的に評価される教育の実践



「真剣な学習をしよう・健康な心と身体をつくろう・親愛の心をもとう」の校訓の下、授業、スポーツ、芸術等様々な文化的活動を通して学びの姿勢を身に付け、たくましく現在を生きる人を育てます。バランスのとれた学習で第一希望の進路が叶うようにカリキュラムを設計し、社会に要請される人を輩出します。

◎ 地域で一番の中高一貫共学校



男女共修の立場で、カリキュラム上、男女ともに学び合い教え合う学習環境から、自由と個性と多様性を尊重し、他者を理解し配慮する心を持ち、自らの成長を促し自立する人を育成します。

(1)「主体的に考え、判断し、行動できる人」の育成 【予算:5,473 万円】



自律的な学びからたくましく現代を生きる生徒を育成することに重点を置き、各種コンクール等外部の様々な活動に主体的に参加できるよう情報提供に努めるとともに、このような活動や経験を通じて生徒自身が将来のキャリアを考えることができるよう、進路教育へとつなぎます。

2020年度は中学2年生から高校2年生に対しタブレットPCの活用による教育を実施し、ICT教育をさらに充実します。

研究室の訪問、大学教員による授業等の大学体験、宇宙エレベーターロボット事業及びDNA(遺伝子)組み換え学習をはじめとした神奈川大学との高大連携を強化し、より高度な教育の実現を目指します。

グローバル教育の充実については、English Loungeの活用や、中学1年生から3年生までを対象とする英語合宿(BEC)を実施するほか、海外研修による課題解決型学習を通して、豊かな教養を育む教育を推進します。また、教員の質を高めるために、国内、海外の大学や教育機関の視察研修や校内での研修、セミナーを実施し、より先進的な教育への取り組みを進めます。

(2)確かな学力に基づく進路指導の充実



生徒の希望に沿う進路選択、また進学先を確保していくため、教科指導方法の向上と合わせて、GTEC(スコア型英語4技能検定)を採用し、e-learning(College Pathway)による英語学習の充実を図っています。

このe-learningシステムの採用に伴い、高い英語のスキルとバランスのとれた全教科の成績が認められた生徒を対象に海外協定大学推薦制度(UPAA)を導入し、希望する生徒へ海外大学への進学を支援します。また、昨年度より導入したKUゼミ(本校OB・OGの大学生・大学院生によるテ

ィーチングアシスタント制度）を開講し、進路に沿った学習支援を一層強化します。

(3) 創造性と豊かな人間性の涵養



豊かな人間性を涵養する場として学級活動、生徒会活動、部活動への取り組みを充実させるとともに、地域と連携したボランティア活動、いのちや思いやりをテーマに、福祉体験授業や医療現場でのドクターやナース体験学習を実施します。また、生徒の個性や創造性を伸長させるため、「体育大会」「くすのき祭」「海外研修」等既存の学校行事を精選し、質を高めます。

高い次元の学びへとつながる創造性豊かな教育を施すため、本校独自の新カリキュラムを構築し、自己学習力の向上と問題設定能力の育成を通して、常に学び続ける学習環境の整備を目指します。

この学びを支えるため、個性、多様性を重視し、他者の様々な考えを理解する思いやりの心と優しさの精神を兼ね備えた自立する生徒の育成に努めます。

3. 基盤整備

◎ 将来構想を推進するための経営基盤の強化



学校法人神奈川大学将来構想を実現するため、将来構想実行計画（2018-2028）の下、大学・附属学校・基盤整備における中期計画（2020-2024）の推進、みなとみらいキャンパス開設準備とキャンパス新総合計画グランドデザインの実現に向けた施策を進め、競争力を強化し、魅力ある学園を構築します。将来構想を実現するため、中長期財政計画（2018-2028）に基づき、創立 100 周年以降もさらに発展するための安定的な経営基盤を強化します。

(1) 財政基盤の強化

ア 中長期財政計画の推進



みなとみらいキャンパス計画及びキャンパス新総合計画による施設整備計画、教育組織の新機軸の検討等の各計画を踏まえ、キャンパス新総合計画施設整備事業引当特定資産の積み立て、教育組織の新機軸の検討に対応した学費改定等、中長期財政計画（2018-2028）で掲げた目標を推進するとともに 2019 年度から実施している管理コストの削減や働き方改革に伴う人件費の抑制等や中期計画（2020-2024）での実現事項も含め、安定的な財政基盤を目指します。

イ 募金事業の強化



創立 100 周年記念募金は、様々なステークホルダーに募集活動を継続的に実施します。特に、2021 年 4 月にみなとみらいキャンパスの開設を控えていることから、「みなとみらいキャンパス開設整備募金」については、企業への募集強化を図ります。また、創立 100 周年記念募金専用サイトの周知を図り、寄付状況等を寄付者に報告していきます。「米田吉盛教育奨学金募金」については、創立者の教育理念に基づく学生支援を強調することで目的を明確にし、寄付金収入の拡大を目指します。

ウ 事業会社の活用



みなとみらいキャンパスの開設を見据え、2017 年 8 月に設立した(株)KU パートナーズに対し、これまでの委託業務に加え、みなとみらいキャンパスの施設総合管理業務を委託する等、さらに事業会社を活用することにより、職員業務の軽減とともに法人全体の業務の効率化を図ります。

(2) 魅力あるキャンパスの構築

ア みなとみらいキャンパス開設準備



2020 年秋の竣工に向け、SDGs や環境へ配慮した建設工事を進めるとともに、2021 年 4 月のみなとみらいキャンパス開設に向け、ソーシャルコモンズ機能の中心となる低層部の運用準備、国際日本学部・外国語学部・経営学部の移転等、開設に向けた準備を推進します。また、併せて、キャンパス全体のデザイン計画等を進めます。



イ キャンパス新総合計画グランドデザインの推進

キャンパス新総合計画は、中長期財政計画におけるキャンパス新総合計画の諸課題に対応するため、教育組織の新機軸、学修者支援のためのスペース確保等を具体化し、各キャンパスごとのコンセプトとそれに合わせた施設整備計画を加味したキャンパス新総合計画グランドデザインを策定し、各計画の推進を図ります。

横浜キャンパスについては、図書館の改修計画を進め、2021年度からの工事着工に向け、施工業者を選定し、工事内容の検討を進めます。理学部の施設移転については、移転先の改修計画の検討を進め2021年度からの工事着工を目指します。

中山キャンパスについては、教育組織の新機軸の検討状況や課外活動の強化を踏まえ、中山キャンパス及びその周辺で体育・スポーツ施設の整備を進めます。また、400mトラックを含めたグラウンド改修の2期工事を進め、2020年度内の完成を目指します。さらに、50mプールの屋内化・温水化に向けて検討を進めます。

経営学部と理学部の移転に伴う体育・スポーツ施設については、教育組織の新機軸の検討等の動向に合わせ整備計画を検討し、魅力あるキャンパス計画を策定します。

また、経営学部、理学部移転後の、湘南ひらつかキャンパスの利活用については、様々な角度から調査、研究を進めます。

(3) 将来構想を実現する組織及び人事制度の強化

ア 大学教員組織・人事制度



新たな学部構想や各学部の改革・改組等を見据えた教育組織の新機軸の検討に取り組み、教員組織の一層の充実を図ります。また、特色ある教育研究の展開や組織改編に合わせて、センター等の全学機関に所属する新たな教員任用制度を導入し、全学組織の再編・改革を進めます。

イ 附属学校教員組織・人事制度



「働き方改革関連法案」を踏まえ、教員の働き方について新たな労働制度の導入に向けた検討を進めます。併せて、ICT、グローバル、STEAM等の先進的な教育を充実させるとともに、授業、教科に関わる教員の指導力育成と向上を図る等、附属学校の教育目標を実現する学び方改革の推進体制を強化するため、教頭職を新たに設置します。また、会議体の見直し、業務の再配置を含めた業務整理、システム構築等、継続的に改革を推進し、本校の教育の更なる向上を図っていきます。

ウ 事務職員組織・人事制度



2020年度は国際日本学部の開設及び各学部におけるカリキュラム改革への対応とともに、2021年度のみなとみらいキャンパス開設に向けた事務組織体制を整備し、具体的な人員配置を実施します。

また、国際化やダイバーシティ等を推進していくための職員の育成を目的とした研修等の充実を図るとともに、大学教員組織、附属学校教員組織の組織改革等を踏まえ、教職協働を意識しつつ、働き方改革に沿った事務組織体制の構築を目指します。

(4) 情報環境の整備

〔予算: 7 億 5,267 万円〕



2021 年度に開設するみなとみらいキャンパスに、新しい規格の無線 LAN 環境を整備します。また、横浜キャンパスで新規に導入する無線 LAN についても規格を合わせ、全体として安定した無線 LAN 環境を整備します。無線 LAN の高速化・高機能化に合わせて、有線 LAN やサーバ環境についても整備し、学生が所有する PC を快適に使用することの出来るような環境を構築します。

(5) 戦略的広報活動の推進

〔予算: 3 億 8,706 万円〕



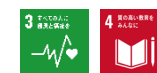
2020 年 4 月開設の国際日本学部の認知をさらに浸透させ、2021 年 4 月のみなとみらいキャンパス開設、グローバル系学部の集約・移転に関する情報を広く積極的に社会に発信し、横浜にある全国型大学としての認知度を高めていきます。

学生募集においては、本学の伝統である給費生試験を軸に、若年層への接触を増やし、「どこよりも人を育てる大学」として社会への認知を広げます。

また、みなとみらいキャンパス開設準備企画や、SDGs 等に関連した広報を進めます。

(6) スポーツ戦略の強化

〔予算: 3 億 4,654 万円〕



陸上競技部をはじめ、重点強化部全体に関わる強化計画等を策定し、運営体制、練習環境を整備し、広報戦略等を推進して、「KU ブランド」の更なる向上を目指します。

(7) 社会、地域及び校友等との連携

〔予算: 2 億 8,086 万円〕

ア 社会連携センターの開設と推進



地域社会の課題解決、連携・協力要請により幅広く柔軟・迅速に対応するため、教学組織と連携して 2020 年度内に実働的で機動性のある社会連携センターを開設し、SDGs の達成に向けて地域社会への貢献活動を積極的に実施します。

イ SDGs の推進



社会連携センターを軸に横浜市や神奈川県等各自自治体との連携に基づいた SDGs への取り組み及び研究活動を強化します。国連大学、横浜市、神奈川県等による SDGs フォーラムをはじめ、地域社会への貢献を見据え、SDGs 等に関連した講演会、シンポジウム等を開催します。

ウ 地元自治体・企業等との連携



SDGs や人生 100 年時代、Society5.0 等、社会情勢の変化を常に念頭に置き、地元横浜市、神奈川県との包括連携協定に基づいた多種多様な連携事業を通じて地域の課題解決を積極的に行います。また、みなとみらいキャンパス開設に向け、地元企業とのパートナーシップをさらに強化するとともに教育・研究環境の充実を図ります。地域町内会自治会、商店街等とはイベントへの相互乗り入れを通じ、コミュニケーションを深め、よりよい地域社会環境づくりを目指します。

湘南ひらつかキャンパスでは、平塚市との「平塚市・神奈川大学交流事業推進協議会」における諸活動（自然環境の豊かな里山を市民と学生が一緒になってよみがえらせる「里地里山再生プロジェクト」にも参画）、また大磯町及び二宮町との包括協定の下での一日大学生等の活動を通じ、近隣自治体との連携を継続します。また、「湘南ひらつか七夕まつり」等での本学学生と地元企業

との連携も支援します。

エ 生涯学習の推進

横浜・湘南ひらつかキャンパス、KU ポートスクエアにおいて、社会の要請に適った講座・講演会を開催し、社会、地域の生涯学習を推進します。KU ポートスクエアは 2021 年 4 月からはみなとみらいキャンパスに移転し、開講を予定しています。



オ 高校生等向けイベントの実施

「第 23 回神奈川大学全国高校生俳句大賞」、「第 19 回神奈川大学全国高校生理科・科学論文大賞」、「高校生向け公開講座」等を引き続き企画・実施します。



カ 校友との連携

在校生及び保護者、卒業生、退職者を含めた教職員等多くの校友との交流を促進し、広く社会、地域との連携が深まるよう、支援策の更なる充実を図ります。

また卒業生ネットワークを強化するため、卒業生調査を継続して実施するとともに、国際日本学部開設、みなとみらいキャンパス開設等の変化を見据えた保護者説明・懇談会やホームカミングデー等の理想的な展開を目指し、校友との連携強化を推進します。



キ 高大連携の強化

今後の 18 歳人口の減少を見据え、本学の強みを活かし、更なる高大接続の充実を図るため、高校の系列化等も含めた検討を継続して進めます。



各項目に付した記号については、国際連合により定められた持続可能な開発目標 (SDGs) の 17 のゴールとなります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



〔学校法人神奈川大学将来構想〕

策定した将来構想の「学園の理念」、「学園の基本方針」、「経営の方針」は次のとおりです。

学 園 の 理 念

○建学の精神 「質実剛健・積極進取・中正堅実」

○使命（ミッション）

「私たちは、建学の精神のもと、時代と社会の課題や使命を地球的視野から深く自覚すると共に、真理を希求する姿勢を持ち続け、自律の精神と共生の視点から主体的に新たな価値を創造する人材を育成し、未来社会の発展と安定に寄与します。」

○100 周年に向けた将来像（ビジョン）

「海により開かれ、世界との接点となった横浜に生まれた本学園は、多様な価値観の共存する時代に、人の交流と文化の融和、知識と実践の循環、教育と研究の融合による 21 世紀における「真の実学」を実現し、地域社会そして地球規模の課題を解決する、世界を惹きつけ、世界に発信する学園を目指します。」

学 園 の 基 本 方 針

- | | |
|------------|---------------------------------------|
| ＜教育方針＞ | 幅広い教養と人間形成を基礎にした「真の実学」を追求します。 |
| ＜人材輩出方針＞ | 自ら成長し、他者と協力しながら社会で生き生きと活躍できる人材を育成します。 |
| ＜入学生受入方針＞ | 学園の理念に共感し、学び、成長する意欲の高い人材を受け入れます。 |
| ＜研究活動方針＞ | 未来社会の発展と安定に貢献する研究を推進し、研究成果を教育に活かします。 |
| ＜社会貢献活動方針＞ | 学園の資源を活用し、地域・日本・世界に貢献します。 |

経 営 の 方 針

建学の精神、使命（ミッション）に基づき将来像（ビジョン）を実現します。

- ・ 社会の変化に対応し、総合性を生かした学園資源の選択と集中を行います。
- ・ 教学の主体性を尊重し、法人のガバナンスを強化します。
- ・ 組織の強化を目指すマネジメントを推進します。
- ・ 財源の多元化を推進し、将来に向け安定的な経営基盤を確立します。



〒221-8686 神奈川県横浜市神奈川区六角橋 3-27-1
TEL 045-481-5661 (代表)